

IPBESと学際的専門家パネル の概要と経験

東京大学大学院農学生命科学研究科

IPBES 学際的専門家パネル(MEP)共同議長

教授 橋 本 禅

IPBESの概要

- **正式名称**

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム
(Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)

- **組織形態**

- 独立した政府間組織(参加国が設立)←国連機関ではない
- 事務局:ボン、ドイツ
- 2012年4月に設立
- 2025年6月30日現在で150か国が加盟

- **目的**

- 生物多様性と生態系サービスの科学と政策のインターフェースの強化
 - 生物多様性や生態系サービスの現状や変化を科学的にアセスメントし、報告書を作成し、
 - 生物多様性条約を始めとする関連条約、国際機関、関係国等の政策決定に有用な情報を提供

IPBESの4つの機能

1. Assessment

定期的かつタイムリーに必要なアセスメントを実施

2. Knowledge generation

政策担当者が必要とする科学的情報を特定、優先順位をつけ、新たな知識生成を促進

3. Policy support

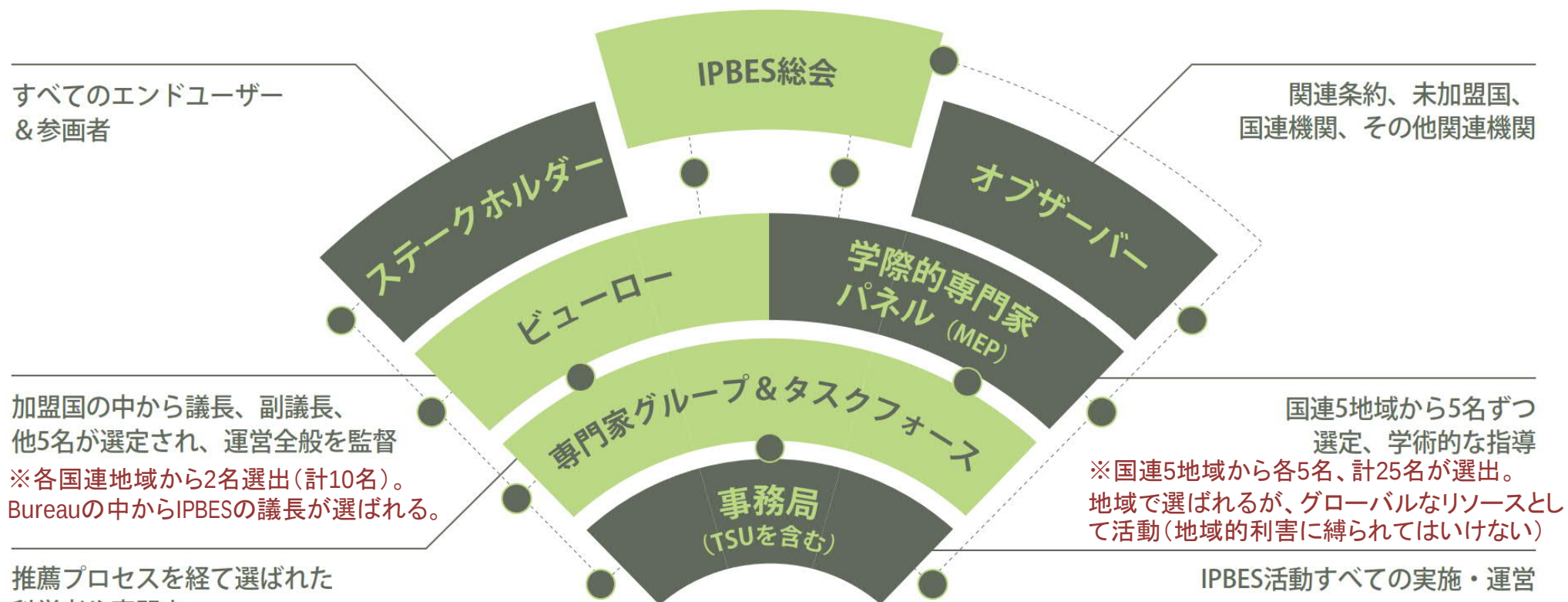
政策の立案や実施を支援

4. Capacity building

科学と政策との連携の改善と関係者の能力養成

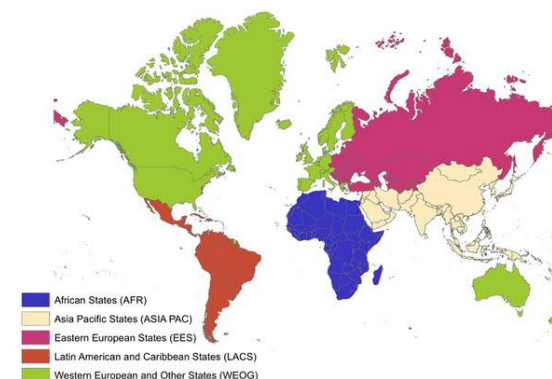
IPBESの組織の概要

総会は全加盟国が参加し、概ね1年に1回開催



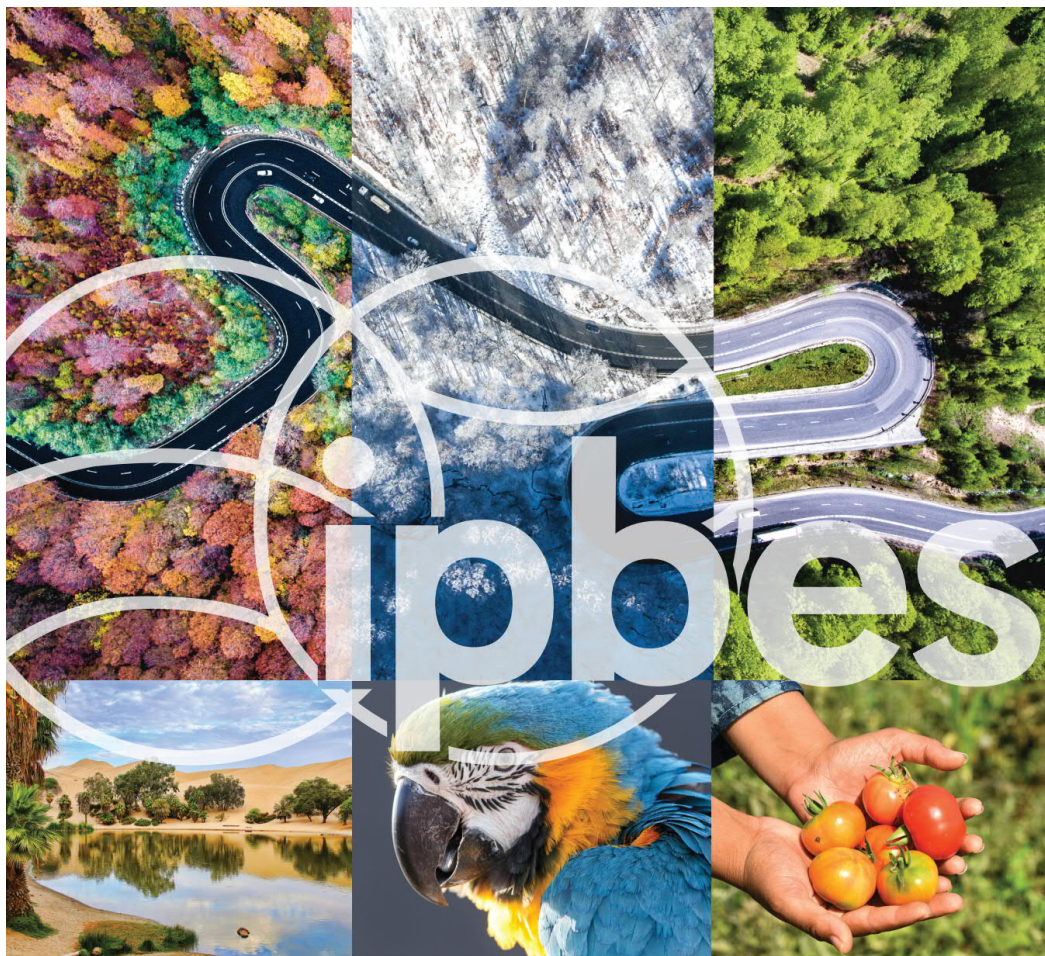
環境省(2023)

国連の地域区分



IPBESプロセスへの研究者の専門家の関与方法

- MEP & Bureau (3～4年, 20%) → 役割の詳細は補足資料参照
- アセスメント (スコーピング: 1年未満、アセスメント: 2～4年)
 - 日本からの応募者数が多い
 - CC (共同議長, 30%) … 3人程度
 - CLA (統括執筆責任者, 20%) … 各章2～3人程度
 - LA (主執筆者, 15%) … 各章10人～15人程度
 - RE (査読編集者, 10%) … 各章2人程度
 - Fellow (フェロー) … 各章2人程度
 - CA (執筆協力者) … 公募対象外。必要に応じてリクルート。
- タスクフォース (3～4年, 15%)
 - Capacity-building、約15人
 - Data management、約10人
 - Indigenous & local knowledge、約15人
 - Scenarios & models、約15人＋フェロー2人
- フェロー
 - アセスメント、タスクフォース毎に公募
 - 学位取得から10年程度が目安



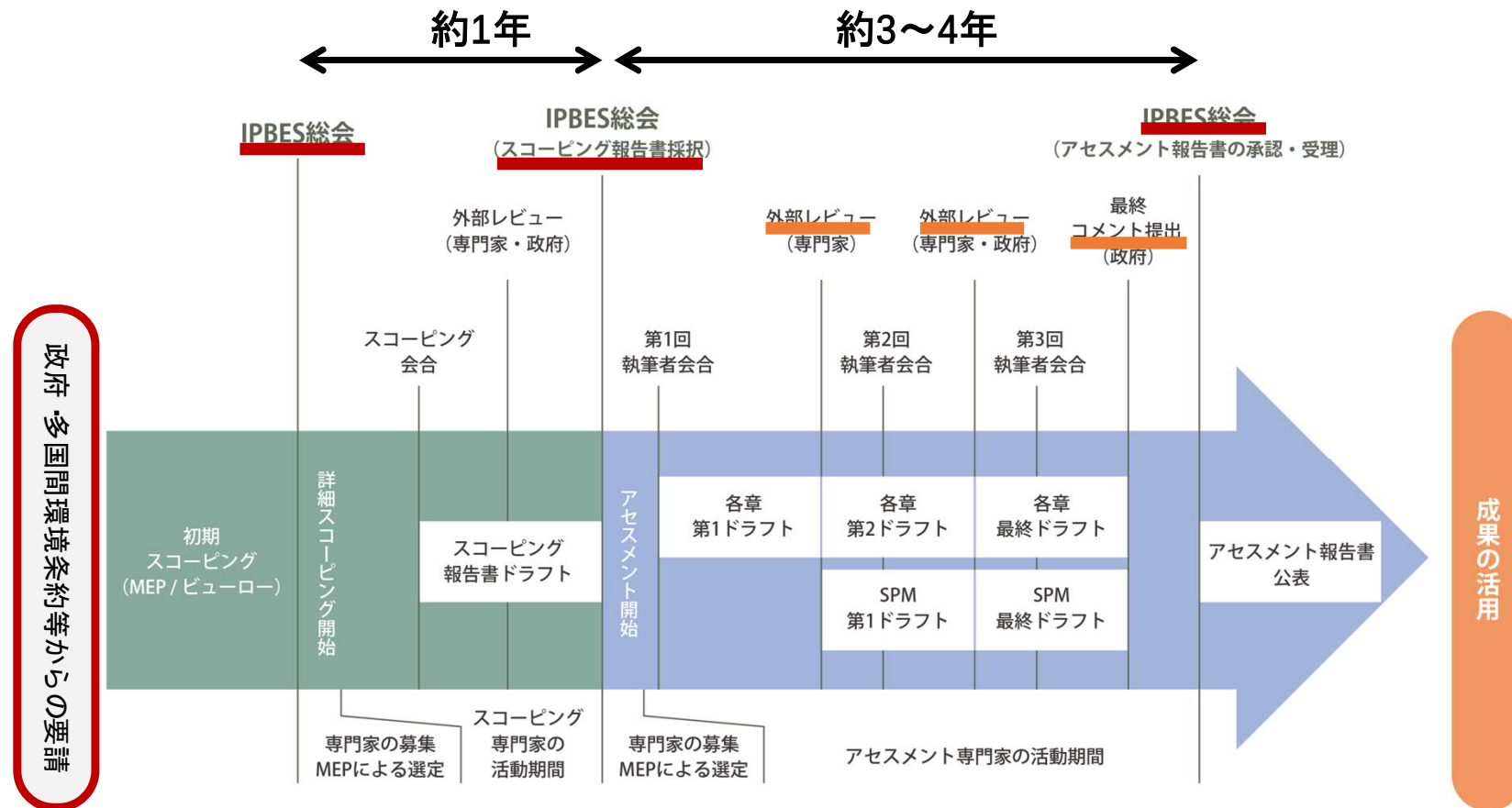
IPBESのアセスメントのプロセスやアセスメントにおける関係主体の役割を説明したガイドブック

THE IPBES ASSESSMENT GUIDE SUMMARY



IPBESのアセスメントのプロセス：標準プロセス

- ①リクエスト→②テーマ選定・初期スコーピング(総会審議)→③詳細スコーピング(総会審議)→④アセスメント着手→⑤執筆者会合(3回)、外部レビュー(2回程度)→⑥アセスメント報告書審議・採択(総会審議)
- 過去のアセスメントの多くは標準的なプロセスで実施。第2回地球規模評価にも適用。



環境省(2023)

補足資料

IPBESに参加する上での留意点

• オンライン会議の時間

- 多くの打ち合わせがオンラインで実施される。中央ヨーロッパ時間を中心に会議の時刻が設定されるため、日本の20時—0時の会合が多い

• アセスメントで行った作業の出版タイミング

- アセスメントで実施したシステマティックレビュー等の成果の発表が認められるのは、SPM採択後
- アセスメントに関わる研究を実施し、論文が公表されると引用するという戦略も可能

• 旅費の確保

- 先進国の専門家・フェローはIPBES事務局から旅費支援を受けられない
※LA、フェローは年1回、約1週間の海外出張。CC、CLAは年2回あることも。

• 時間の確保

- エフォートはCC30%、CLA20%、LA15%、RE10%と言われることも
- 特に外部レビュー(年1回)、執筆者会合(年1回)に向けて忙しくなる

• 大学・研究機関等の組織内での評価

- IPBESの知名度はそれほど高くない。現在もIPCCにくらべると知名度は著しく低い
- IPBESはキャパビルプログラムを持つものの、不安定な身分の若手研究者には参加のハードルが高い(研究時間とのトレードオフ)

MEPとBureauの役割

科学技術的側面からの運営の支援

学際的専門家パネル(MEP)

行政的側面からの運営の支援

Bureau

スコーピング

専門家の選考 **専門家の選考**
スコーピング報告書の**科学的・技術的要素**、および以下の管理要素の策定を**監督**: ①全体的な活動スケジュールとマイルストーン、②評価のためのデータと情報管理の検討、③知識ギャップの特定

スコーピング スコーピングレポートの**レビュー**

選考過程で適用される**ルールの遵守を審査**
スコーピング報告書の以下の**管理要素の作成を監督**: ①必要と思われる運営体制、②活動の推定費用と潜在的資金源、③能力開発への介入、④コミュニケーションおよびアウトリーチ活動
スコーピング報告書の草案の関連部分をレビューし、**草案がプレナリーの関連決定に沿っていることを確認**
執筆者会合の開催に関する指針の提供(①会議が総会で採択された予算内に収まっている、②参加者が適切に選ばれていること、③パートナー組織との協力が適用される規則の範囲内で行われているの確認を含む)

アセスメントの準備

専門家の選考 **専門家の選考**
科学的、技術的側面に関して、政策立案者向けの章や要約の**草稿をレビューし、科学的品質、独立性、信頼性を確保し**、異なる知識体系を取り入れる

ドラフトの作成

選考過程で適用される**ルールの遵守を審査**
SPMの草稿をレビューし、政策に関連する資料が含まれていること、メッセージがバランスの取れたものであること、基礎科学に沿ったものであること、合意された文言を遵守していることを確認し、評価の草稿が承認されたスコーピング文書に沿ったものであることを確認
執筆者会合の予算、参加者等についての指導

タスクフォース

専門家の選考 **専門家の選考**
科学的・技術的な側面に関する成果物の草案を作成し、**科学的品質、独立性、信頼性を確保し**、さまざまな知識体系を取り入れる。

選考過程で適用される**ルールの遵守を審査**
戦略的パートナーや協力的支援者の特定に関する指導
タスクフォース会合の**予算、参加者等についての指導**

コミュニケーション & アウトリーチ

コミュニケーションおよびアウトリーチ活動の監督

作業計画2019-2030の5つの目的とタスクフォース

- 目的2～4の遂行のため5つのタスクフォースとその事務局TSU(技術支援機関)を設置(IPBES-10で体制変更)
- IPBESの運営に不可欠な特定の分野における専門知識を提供し、評価プロセスやプログラムの実施を支援

目的1

科学的評価（アセスメント）

- a) 生物多様性、水、食料、健康の相互関係の評価
- b) 生物多様性と気候変動の関連性の評価
- c) 生物多様性損失の根本的要因、社会変革の決定要因、2050年生物多様性ビジョン達成のためのオプションの評価
- d) ビジネスが生物多様性と自然の寄与に与える影響・依存度の評価

目的2

能力養成

- a) 学習・参画の強化
- b) 専門知識及び情報へのアクセス促進
- c) 国レベル・地域レベルの能力強化

目的3

知見生成・データ管理強化

- a) 知識・情報・データに関する作業の進展
- b) 先住民・地域社会の知識体系（ILK）に関する作業の強化

目的4

政策手法、政策支援ツール・方法論の開発・活用促進

- a) 政策手法、政策支援ツール・方法論に関する作業の進展
- b) シナリオ・モデルに関する作業の進展
- c) 多様な価値に関する作業の進展

目的5

コミュニケーション（広報）・参画

- a) コミュニケーション強化
- b) 政府の参画強化
- c) ステークホルダーの参画強化

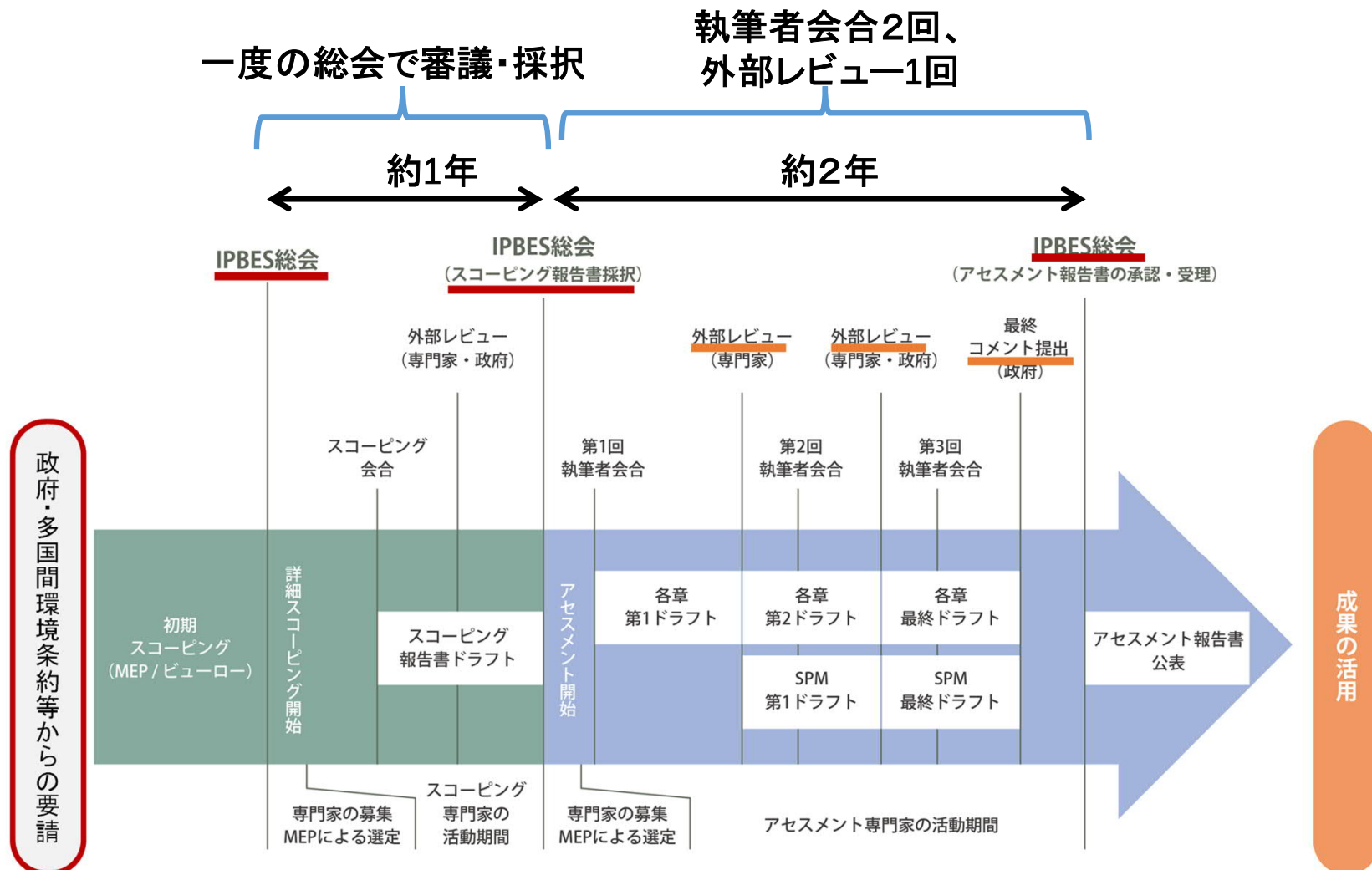
目的6

IPBES全体の効果改善

- a) IPBESの効果に関する定期的レビュー
- b) IPBESの概念枠組のレビュー
- c) アセスメント実施プロセスの効果改善

IPBESのアセスメントのプロセス:ファースト・トラック

- 比較的短期にアセスメントを準備・完了するプロセス
- 詳細スコーピングを行う場合と行わない場合がある
- 執筆者会合2回、外部レビュー回数1回、その後最終ドラフトへの政府コメント提出、総会で審議



IPBES地球規模評価報告書の公表(2019年5月)

世界50カ国から145名の著者が執筆に参加

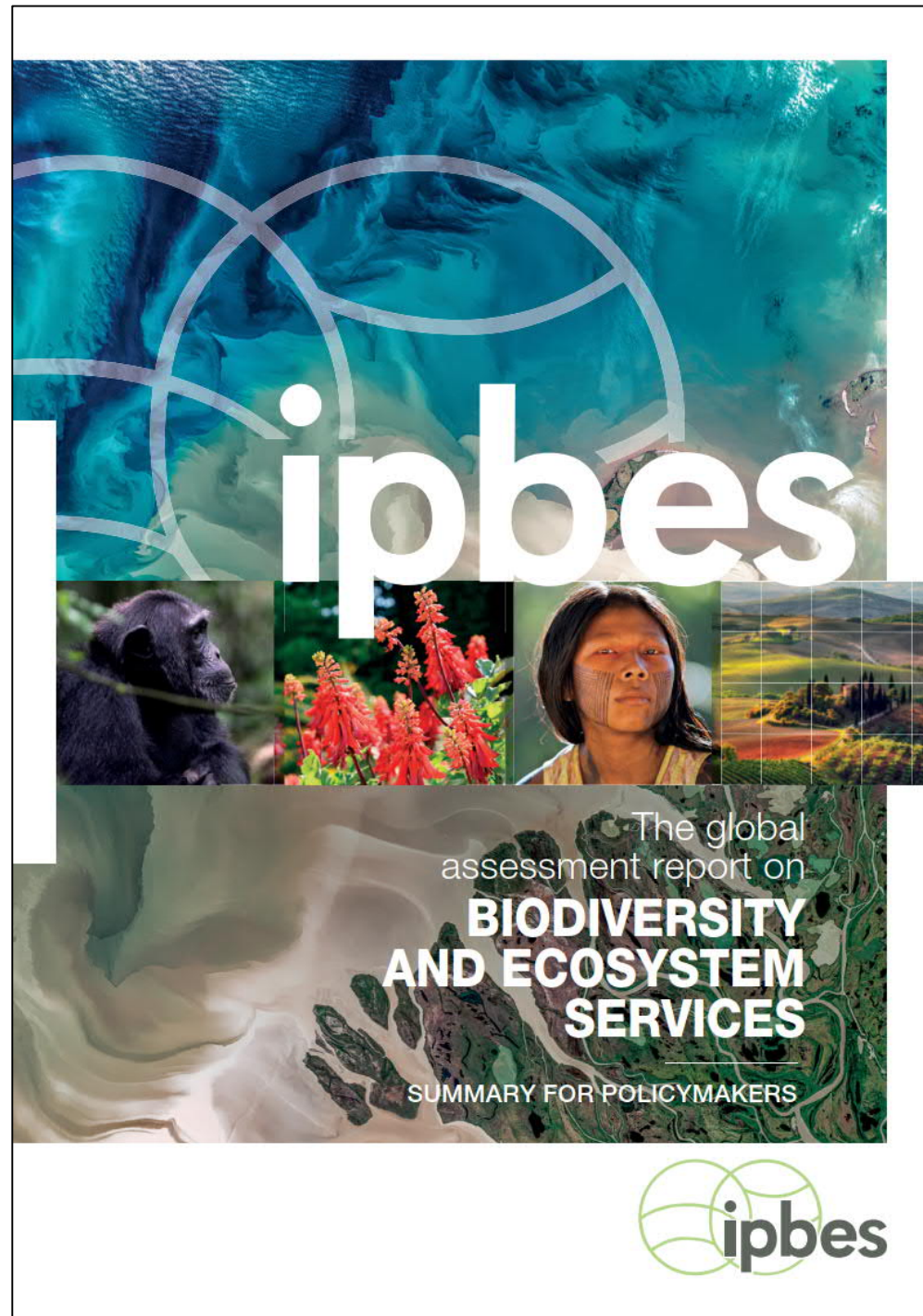
- 全体で1500ページ超
- 政策決定者向け要約 (SPM)(39ページ)の採択に約40時間を要した



関係国の**政府がSPMの内容に合意**することで、**条約交渉の基盤**になる



2022年12月採択の生物多様性条約「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の交渉基盤



日本語版はこちら



IPBESによるアセスメント・ワークショップ報告書の公表状況

公表年	報告書のテーマ
完了	2016 生物多様性・生態系サービスのシナリオ・モデルの方法論アセスメント報告書 花粉媒介・食料生産に関するアセスメント報告書
	2018 生物多様性・生態系サービスに関する地域別アセスメント報告書 ①アフリカ、②南北アメリカ、③アジア・オセアニア、④ヨーロッパ・中央アジア 土地劣化と再生に関するアセスメント報告書
	2019 生物多様性・生態系サービスに関する地球規模アセスメント報告書
	2020 生物多様性とパンデミックに関するワークショップ報告書
	2021 生物多様性と気候変動に関するIPBES-IPCC合同ワークショップ報告書
	2022 自然とその恵みに関する多様な価値評価に関する方法論アセスメント報告書(価値評価) 野生種の持続可能な利用に関するアセスメント報告書
	2023 侵略的外来種に関するアセスメント報告書
	2024 生物多様性、水、食料及び健康間の相互関に関するアセスメント報告書(ネクサス) 生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性の2050ビジョン達成のためのオプションに関するアセスメント報告書(社会変革)
実施中	2026 企業が生物多様性と自然の寄与に与える影響及び依存度に関する方法論アセスメント報告書(ビジネスと生物多用性) 生物多様性と自然の寄与のモニタリングに関する方法論アセスメント(モニタリング
	2027 生物多様性を考慮した統合的空間計画と生態系の連結性に関する方法論評価(空間計画・連結性)
	2028 生物多様性と生態系サービスに関する第二次地球規模アセスメント(第二次地球規模)